

終戦から70年終戦記念日を迎えて

70回の8月15終戦記念日

日本の平和がゆらいでいる

8月15日70年目の終戦記念日を迎えた。ことしは安保関連法案が国会で審議されている中での終戦記念日となった。安保関連法案はどう見ても他国を武力で守ることになる「集団的自衛権の行使」を可能にするための法案だ。国民は新たな戦争に巻き込まれる危機感から連日反対運動がおこなわれている。反対運動は戦争を経験した年輩者はもちろん、経験していない若い人などにも広がりを見せている。特に若い人が街頭に立って反対を訴えていることなど、これまでにない動きだ。そのような国民の声を無視し、法案は9月にも成立すると言われている。

戦後70年あの悲惨な戦争からたった70年しかたっていないのに、日本の平和主義がゆらいでいる。70年前、もう戦争はこりごとと平和国家として戦争を否定して立ち上がった日本を、安倍首相は捨て去ろうとしている。

安保法制を進める安倍首相の談話

戦後70年の節目として首相談話が発表された。戦争の危機をはらんだ安保法制をすすめる安倍首相である、談話のなかでいくら「反省」「お詫び」を口にしても空虚である。本当に平和国家として歩んでゆくのか？疑問である。それどころか武力で安全を守る姿勢を貫こうとしている。懐の武器が見え隠れする安倍首相の平和宣言では誰も信用はしない。

100年間戦争をしない国づくりを

こんにちまでの70年間は戦争経験者が先頭で平和を守ってきた。それをうけて若者たちは語る「私たちが後30年がんばって戦争をしない国として、100年を迎える。」と、100年間戦争をしない国にすると訴えている。平和国家の日本は、今正念場を迎えている。30年先を見据え、平和国家を維持するために安倍首相の暴走を、いま止めなくてはならない。

戦争をしない国それは決して理想ではない、なぜなら日本という国は70年戦争をしなかったではないか、決してできないことではない。

70年前の終戦はまさに戦争の終わりであったはずだ!!